幼児における形容詞と名詞とからなる句の理解の発達過程

藤木大介・関口道彦・加島志保・高橋佳子・倉田久美子・山崎　晃
（広島大学大学院教育学研究科）

Key words：言語獲得，形容詞，名詞，概念結合

幼児が言葉を理解できるようになるにはどのような段階を経るのだろうか。言語の理解には語彙を獲得するだけでなく，単語同士の結び付け方の獲得も必要である。Ninio（2004）は，名詞句「黒い靴」を理解するためには最初に名詞「靴」の意味を理解し，その属性として形容詞「黒い」の意味を割り当てる必要があると考えた。また，この2段階の処理が必要なため名詞と比べて形容詞の理解が難しく，名詞だけに注目して理解する発達段階があると考えた。これを確かめるため，Ninio（2004）はヘブライ語を話す幼児に黒い靴，白い靴，黒い靴下，白い靴下のカラー写真を示し，黒い靴がどれであるか尋ねた。黒い靴を選べば正答であるが，白い靴を選べば名詞に依存した誤答，黒い靴下を選べば形容詞に依存した誤答，白い靴下を選べば完全な誤答であるといえる。Ninio（2004）の考えが正しければ名詞依存の誤答が形容詞依存の誤答よりも多くなると予測され，結果は予測通りとなった。

しかし，この研究には問題が残っている。ヘブライ語では「大きなテディベア」の様な表現は「ha-dubi　ha-gadol」（冠詞-テディベア　後節語-大きな）となる。確かにこの語順であれば最初に名詞が入力され，続いて形容詞が入力されるのでNinio（2004）の2段階仮説に良くあてはまる。しかし，名詞は初頭語でもあるため，名詞であるという要因と初頭語であるという要因が交絡しており，句の理解でいずれの要因が重要であるかが判然としない。これに対し，日本語では「大きなテディベア」のように名詞が後置されるのでこの交絡を解消できる。そこで実験1では日本語の名詞句でNinio（2004）の結果が追認されるかを検討する。もし，Ninio（2004）と同様，名詞依存の誤答が形容詞依存の誤答よりも多くなるならば「仮説 1：発達段階の初期では句内の名詞のみを理解する段階がある」を支持するといえる。これに対し，形容詞依存の誤答が多くなるならば「仮説 2：発達段階の初期では句の初頭語のみを理解する段階がある」を支持するといえる。

また，実験1においてNinio（2004）の結果が追認されたとしても交絡要因は依然として存在する。具体的には名詞であることとそれが句の統語上の主要部であることとが交絡している。そこで実験2では「テディベアが大きい」のような形容詞を主要部とする形容詞句を用いてこの交絡を解消する。それでもなおNinio（2004）と同様，名詞依存の誤答が多くなるならば仮説1を支持するといえる。これに対し，形容詞依存の誤答が多くなるならば「仮説 3：発達段階の初期では句の主要部のみを理解する段階がある」を支持するといえる。

実験1

対象児　保育所に通う幼児62名であった。

材料　4枚を1組とする12組の絵を用いた。これは黒い靴，白い靴，黒い靴下，白い靴下のように，指示対象を共有する2枚2対，属性を共有する2枚2対で1組をなしていた。

手続き　実験は個別に行った。実験者の操る手人形「パンダ君」が「黒い靴を欲しがっているんだけど，どの絵か教えてくれるかな」と尋ねた。絵は2列2行で呈示した。

結果と考察

幼児を月齢によって8群に分け，その平均回答数を求めた（図 1）。名詞依存の誤答の方が形容詞依存の誤答よりも多く（$z = 6.80$, $p < .001$），また，年齢が低いほどそれが顕著であることが読み取れる。したがって，仮説1が支持された。

実験2

対象児　保育所に通う幼児73名であった。

材料　実験1と同じであった。

手続き　実験 1 と比較して，教示を「パンダ君の靴は黒いんだけど，どの絵か教えてくれるかな」と変更した。

結果と考察

幼児を月齢によって8群に分け，その平均回答数を求めた（図 2）。名詞依存の誤答の方が形容詞依存の誤答よりも多く（$z = 6.35$, $p < .001$），また，年齢が低いほどそれが顕著であることが読み取れる。したがって，仮説1が支持された。

以上から，形容詞と名詞からなる句の理解の発達段階では名詞に依存した理解がなされる段階があることが示された。

文献

Ninio, A.（2004）. Young children's difficulty with adjectives modifying nouns. *Journal of Child Language*, **31**, 255-285.

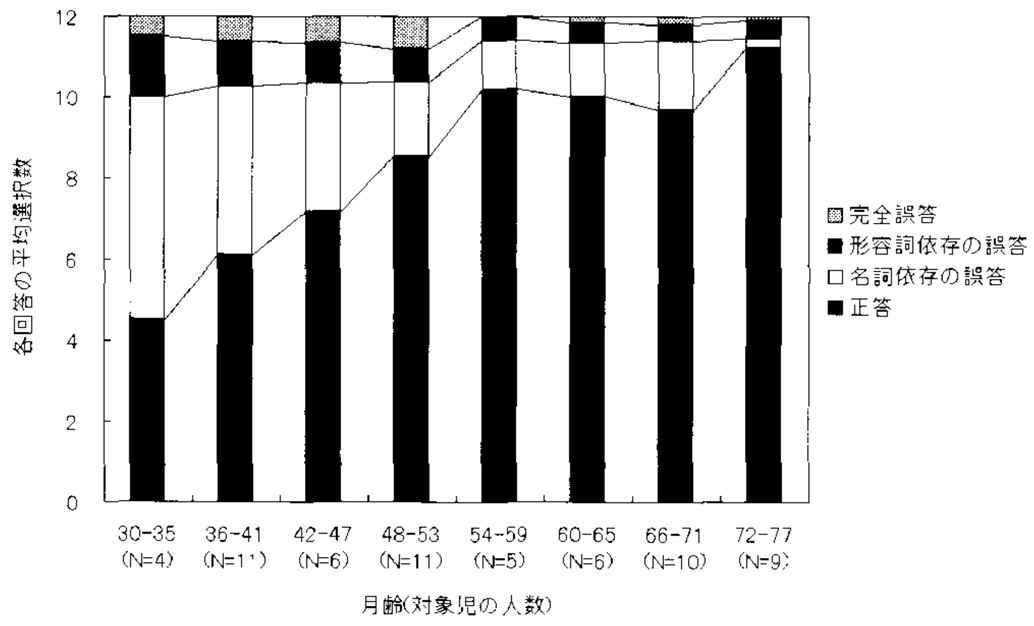

図1　実験1における回答の種類ごとの平均選択数

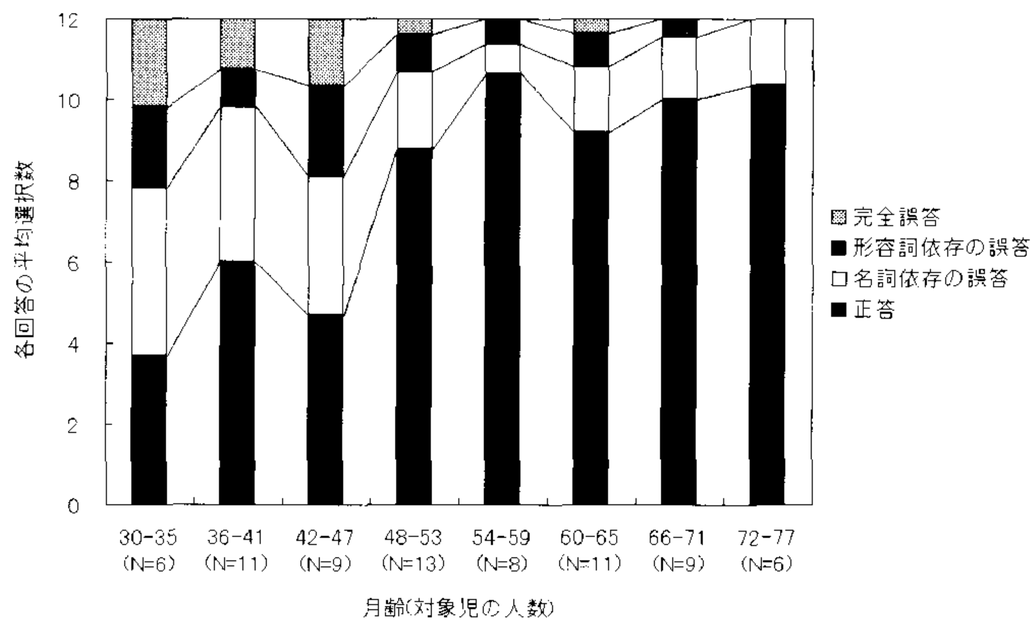

図2　実験2における回答の種類ごとの平均選択数